

令和6年度第1回
枚方市上下水道事業経営審議会

枚方市の水道事業について

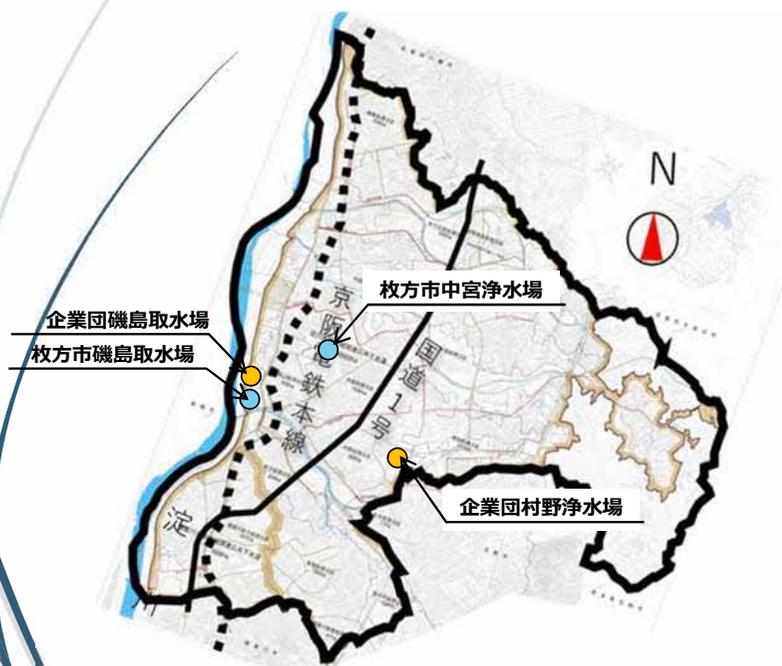
令和6年（2024年）6月11日（火）
枚方市上下水道局



水源について

枚方市の水道事業は、淀川の表流水を水源とする自己水系統と大阪広域水道企業団からの浄水受水による受水系統の2系統からなります。企業団の水源も淀川であるため、本市の水道水はすべて淀川が水源となります。

年間配水量約4400万 m^3 のうち、自己水が約88%、企業団受水が約12%となっています。



年間配水量約4400万 m^3
(日平均約12万 m^3)

水道施設（浄配水施設等）について

自己水系統は、磯島取水場から取水し、中宮浄水場で浄水処理を行い、田口山配水場及び春日受水場へ送水しています。

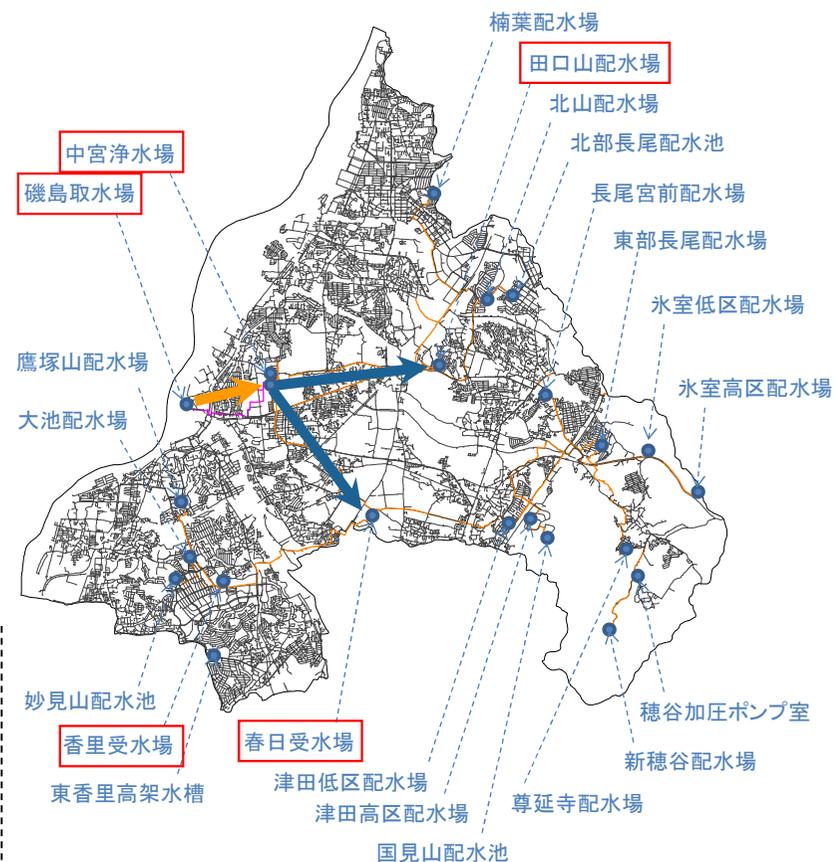
田口山配水場は市北部の基幹的な配水施設となっており、北山配水場及び楠葉配水場へ送水しています。

春日受水場は、市東部の基幹的な配水施設である津田低区配水場や市南部の大池配水場および鷹塚山配水場へ送水しており、津田低区配水場からは東部の山間地域へ送水しています。

受水系統は、企業団村野浄水場で浄水処理し、主に香里受水場で受水しています。香里受水場から大池配水場および妙見山配水池へ送水し、市南部地域へ送水しています。

（取水場：1カ所、浄水場1カ所、配水池など：20カ所）

- 取水場・・・淀川から原水を取り入れます。
- 浄水場・・・原水を飲料水まで浄化します。
- 配水池（場）・・・時間によって変動する水需要に対応するための役割（時間変動調整機能）と非常時に一定の水量を確保する役割（非常時対応機能）があります。他の配水池へ送水する機能がある箇所は配水場と呼んでいます。
- 受水池（場）・・・企業団から浄水処理した水を購入する場合、管路の境界（分岐）を過ぎた水を、最初に溜めておく池を「受水池」と呼んでいます。「受水池」にも「配水池」と同様の役割があります。



水道施設（浄配水施設等）の更新・耐震化について

施設の老朽化等の状況に応じて、改修工事や耐震補強工事などを実施しています。また、改修や耐震補強が困難な施設については、新たな施設を整備する更新・耐震化工事を実施しています。

配水池の耐震化に合わせて、地震時に配水池から水の流出を防止するための緊急遮断弁を設置しています。



中宮浄水場更新事業のイメージパース（令和9年度完成予定）



更新・耐震化した鷹塚山配水場（令和2年度完成）

施設名	経過年数
磯島取水場	61年
中宮浄水場	61年
大池配水場	61年
妙見山配水池	61年
田口山配水場	56年
鷹塚山配水場	2年
東部長尾配水場	54年
尊延寺配水場	53年
北部長尾配水池	53年
楠葉配水場	47年
東香里高架水槽	48年

施設名	経過年数
春日受水場	44年
津田低区配水場	39年
北山配水場	32年
長尾宮前配水場	28年
津田高区配水場	26年
国見山配水池	26年
中宮浄水場	25年
高度浄水施設	25年
香里受水場	25年
新穂谷配水場	21年
氷室低区配水場	18年
氷室高区配水場	16年

令和4（2022）年度末現在



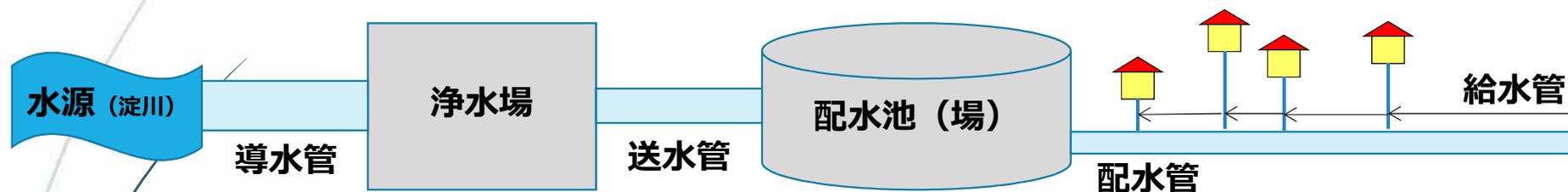
耐震補強した配水池内部
（津田低区配水場、令和5年度完成）



緊急遮断弁の外観（津田低区配水場3号池）

水道管について

○枚方市が所有（管理）する水道管の総延長は約1,180kmとなり、大阪府内の市町村では、大阪市、堺市に次ぐ3番目の長さとなります。



導水管 …… 水源から浄水場まで水を送るための水道管
送水管 …… 浄水場や受水場から配水地まで水を送るための水道管
配水管 …… 配水池（場）からお客様の近くまで水を送るための水道管

※配水管から分岐し、お客様の宅内につながっている水道管及び宅内配管を「給水管」といいます。給水管はお客様の所有になるので、枚方市の所有（管理）する水道管には含まれません。

導水管	4.4 km
送水管	46.1 km
配水管	1128.8 km
総延長	1179.35 km

令和4（2022）年度末現在

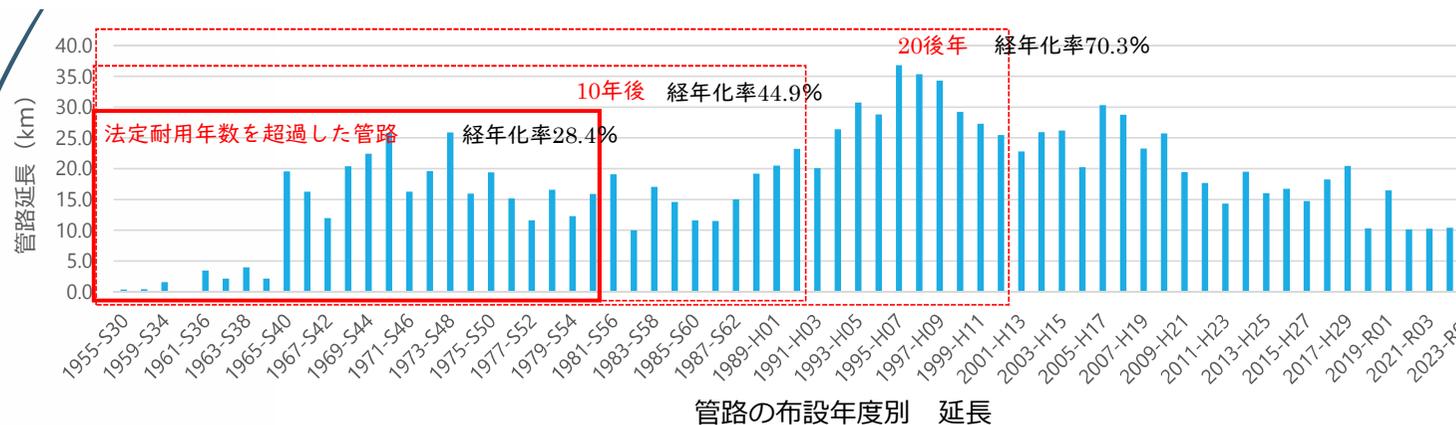
水道管の更新・耐震化について

水道管の法定耐用年数（40年）を超えた管路延長の割合を表した経年化率は、令和4年度末で28.4%となり、今後も上昇を続けます。

現在は、破損した場合に市民生活等への影響が大きくなる送水管や配水本管などの基幹管路を中心に、更新・耐震化を進めています。



水道管の更新工事



		大阪府平均	枚方市
経年化率 (%)	基幹管路	51.0%	46.4%
	全管路	35.0%	28.4%
耐震適合率 (%) ※	基幹管路	55.1%	37.4%
	全管路	34.0%	37.4%

令和4（2022）年度末現在

※ 耐震適合率＝耐震適合性のある管延長／総延長



水道事業の今後の取組みについて

- 地震による水道施設・管路への影響を最小限にとどめるよう、引き続き、基幹施設である中宮浄水場や各配水池及び基幹管路などの更新・耐震化を進めます。
- 施設・管路の資産管理（アセットマネジメント）により、適切な時期に計画的に更新等を行うとともに、ダウンサイジング等の施設総量の最適化による更新需要の削減に努めます。
- DB（デザインビルド）方式やPFIなどの官民連携の手法を検討し、質の高い公共サービスの調達、事業コストの削減を進めます。